第215回　臨時会より

ここが聞きたい　市政をただす
緊急質問

7月13日の本会議では、延べ10人の議員が質疑・市長の所信表明に対する緊急質問を行い、議案や市政全般にわたり活発な質問が行われました。

加西の未来の具体的なビジョンとその達成に向けたプロセスの流れについて

Q　市長が指し示す郷土の新時代というべき加西の未来像、具体的なこのまちのあり方というものをどのようにお考えか。そして、その具体的な未来ビジョン達成に向けて大きな枠組みとして限られた財政を何に集中し、何を産みの苦しみとして市民に我慢をしてもらうのか。財政が逼迫しているということは周知の事実だが、何でもかんでも予算をカットして、財政再建というふうには考えられていないと思う。郷土新時代、未来ビジョンという目標に向かって進んでいると思えるからこそ、投資すべき予算、カットすべき予算というメリハリに市民は納得できると考える。

私は子育てをする世代が、まず加西に振り向いてくれることが最も重要と考えている。決して高齢者福祉等をおろそかにするということではなく、既に加西の各地において子育て世代が流出し、そのために、各地域コミュニティー自体が崩れ始めているという現象が見られる。子育てをする世代が加西に着目し、Uターン、Iターン等を含めて加西市に帰ってきて、住んでもらうためにどこに着目するのかを明確にすることが、大事な視点ではないかと思うが。

A　平成18年に加西市の基本理念である全国に誇れる魅力あるまちづくりということで、改革マニフェストを加西市の直面する課題ということで、70項目にまとめています。その中には、ビジョン、まちのあり方、将来の加西市のかたちを19項目位置づけています。そのほかに市民の満足の向上項目を30項目、財政再建項目を21項目で、これらを3年間の間に達成すれば、加西市は全国に誇れる加西市になろうということで、現在取り組んでおり、19年度がまさに実施の年となっています。

その執行については、PDCAのサイクルにより検証をしながら、1日でも早く信頼のおける加西市をつくるということにしています。

子育て世代が加西で安心して生活できる、加西がそういう魅力的なまちになるためには、一つは快適な住環境ができるだけ安いコストで提供できる、住宅価格、土地代が安い、家賃が安い等、そういうことが一つの快適な住環境を提供することになるのではないかと思います。もう一つは、若い人が好んで就職できるような定職が確保されること、三つ目には、子育て世代のための財政的な支援、あるいは市民子育てサービスメニューを行政が提供すること、そして、子育てに関わるいろんな経済的な負担感、肉体的な負担感も軽減できるという、三つの要素が必要ではないかと考えています。

反省すべき点とは?今後の採用方法の確立は?

Q　「再選を果たした今、反省すべき点は反省し、今後に生かしていきたい

PDCAサイクルとは　Plan（計画）、Do（運用）、Check（評価）、Action（見直し）のプロセスを順に実施し、このサイクルを繰り返すことによって、品質の維持・向上および継続的な業務改善活動を推進する手法。